特別活動の授業～構成的グループエンカウンター～

桑野　まゆら
（教育実践コース２年）

中国では，日本の特別活動のような領域は教育課程に位置づけられていない。また，授業では，子ども同士がコミュニケーションをとり合ったり，お互いの良さを知ったりする機会があまりないとも聞いていた。そこで，今回の訪中事業では，特別活動の中の学級活動として，子ども同士がお互いのことを知る楽しさを感じることのできる授業を行いたいと考えた。

特別活動グループは，玉井院生，星院生と３人で授業を構想した。授業を行うのは中国の小学校だが，それぞれが中学校教員・小学校教員・ストレートマスターとしてアイデアを出し合い，構成的グループエンカウンター「他己紹介をしよう」の授業を行うこととした。中国では，９月に進級するので，私たちが訪中する11月は，日本の６月頃の学級の様子を想定することができた。学級の友だちとは仲良くなりつつあるが，お互いのことはまだよくわからないという姿を想像した。友だちのことを知ろうとするきっかけを作ること，友だちについて知りたいことを自分で選びもっと知ろうとさらに質問を考えること，知ったことをその友だちになりきって他の友だちに知らせたり知らせてもらったりすることを通して友だちとお互いのことを知る楽しさを感じることを授業のねらいとした。授業の大まかな流れは以下の通りである。

①アイスブレイキング･･･「ナンバーコール」で仲間づくり
②エクササイズ･･･①で作った４人組から２人組にわかれてインタビュー
　　②で作った４人組にもどって他己紹介
③シェアリング･･･インタビューした感想や友だちになりきって紹介したり紹介されたりした感想を伝え合う。

訪中前に，在籍校の５年生の学級で実際に授業を行った。子どもたちは，２人組になった友だちについて，教師が示したインタビューのリストの中から知りたいことを選び，積極的に質問をしていた。この授業は10月に行われたため，子どもたちは学級の仲間と半年

一緒に過ごしてきた。それでも最後のシェアリングでは「友だちの今まで知らなかったことを知ることができてうれしかった。」「他の友だちにも聞いてみたい。」などといった感想を聞くことができた。そして，訪中までに再度検討を行い，改善点を修正して，本番を迎えた。

中国では，南澳実験学校の4年生で授業を行った。私たちが授業を行う前に，中国の先生方の授業を参観することができた。そこで見た授業では，事前に聞いていたこととは異なり，子ども同士がコミュニケーションをとりながら協働して問題を解決しようとする姿があった。私たちの授業でも，子どもたちは仲間づくりからとても積極的で，次はどんな指示が出るのだろうと目を輝かせながら待つ姿が印象的であった。インタビューの場面では，友だちに聞かれたことを一生懸命に答える姿，友だちが答えてくれたことからどんどん質問を広げていく姿を見ることができた。他己紹介する際には，少し照れくさそうにしながらも自分がインタビューしてわかったことを聞いている友だちにうれしそうに伝えていた。最後のシェアリングでは，グループでお互いが感じたことを交流したあとに，全体での発表を促した。多くの子どもたちが発表したいと挙手し，全体の前でも素直に感じたことを発表する子どもたちが多くいた。子どもたちからは，「もっと友だちのことを知りたくなった。」「楽しかった。他の友だちともやってみたい。」といった感想を聞くことができた。

その後，中国と日本のそれぞれの授業について，先生方による検討会が行われた。私たちのグループは，中国側の複数教科の検討と同室だった。そのため，こちらの意図は伝えることができたが，中国の先生方から見てこの授業はどうだったかということについて十分に聞く時間が確保されなかったことが少し残念であった。

この授業を通して感じたことは，国や文化が違っても，生き生きと活動に取り組む子どもたちの姿，育てたい子どもたちの姿を想定し一生懸命に授業を考え，さらに授業がどうだったかと熱く検討する先生方の姿は，日本も中国も変わらないということだ。今回このような機会をいただき，授業ができたことに大変感謝している。